

# 第10回大雪山忠別湖トライアスロンひがしかわ

# 湖畔に挑む盛夏の祭典

大雪山忠別湖トライアスロンひがしかわ実行委員会（藤田裕三実行委員長）主催の第10回大雪山忠別湖トライアスロンひがしかわ大会が8月7日、大雪山麓の忠別ダム湖と周辺特設コースで開かれました。全国から一般380人（9チーム）、ジュニア42人がエントリー、真夏の日差しを浴びて湖畔を駆け抜けました。（成績は26ページ、各種大会成績欄）

午前10時、一般の部353人、レディースの部9チームのスイム選手が忠別湖の湖面めがけて一斉にスタートを切りました。気温セ氏27・4度、湖面水温はプラス22度、快晴、風速は南東1・1メートルの微風でコンディションは良好。レース終了後の午後3時過ぎには最高気温32・5度まで上がって今夏トップクラスの暑さとなり、久保一輝さん（25）もかわ町、胆振東部消防組合署員が3年ぶり2回目の優勝。女子は初開催以来10回出場の新田愛里選手（36）も札幌・テイバイティガレージが10連覇を飾りました。

## 優勝へ2年ぶりの6回目出場の久保一輝さん

2年ぶり6回目出場での2度目の優勝をした久保一輝さんのタイムは、大会記録更新まではいかなかったものの、前年優勝タイムを12分17秒も更新する2時間1分23秒。2年前の2位雪辱を果たしました。



「苦小牧の大会より10分早かった」と12位でゴールし「最高に楽しい」。今は富良野の別荘に住んでいるという「北海道は一番好きな場所」。

## 留萌から2年ぶり2度目の元緑小父母の会

2年ぶりの2回目レディース出場の元留萌緑小父母の会は、スイムの田代清洋さん（46）、バイク担当の鈴木雄一さん（44）、ラン担当の吉田影美さん（39）の3人。子どもが5年の同級生だった縁でチームを結成し、その後スイムに出場した田代さんが函館転勤になったため、昨年は出場できなかったそう。今年はずっと中学生に進み、再びそろって出場することが出来、3位入賞を喜び合いました。

## 3年ぶり出場の中村さん、「すべく楽しかった」

3年ぶりの6回目出場の町内在住、中村舞さん（34）。夫亮平さん（34）と



「自転車の練習中に転んでけがしてしまい、去年の大会に出られなかったんです。今年は最近までスイムとランニングで調子悪かったんだけど、1週間前の大会（7月31日、苦小牧ハスカップトライアスロン大会）で優勝できて自信になった」と2位を10分以上離して余裕のゴール。

2017年ワールドチャンピオンシップ・ハワイ大会の予選レースとして挑む予定の台湾アイアンマンレースボンフー（澎湖）島大会（10月2日）に出場予定。「本来はこの大会の距離より長いのが好き」とロング大会への自信がうかがえます。

2人で出場し「今年も亮平に負けなかった」とゴール。

2年前は長女、さくらちゃん（1歳4カ月）がまだお腹の中で出場でできず、昨年は出産後の子育て中でした。

2年間の間隔を空けて出場した久々のレース。「温かったし、すごく楽しかった。でも記録タイムは下がったなあ。『あー、やっぱり出ないんだ』って…。それでも旦那には勝ったゾー」。

## 初出場の石本さん大健闘



大会初の役職員出場となったのは、トライアスロン初挑戦の石本華奈さん（23）。

「小学校から高校までやっていながら水泳だけは得意だったんだ」とB&G海洋センターで練習を繰り返して臨んだ大会。仕事が終わってから週3回ペースで10キロのランニング練習もこなしてきたそう。

「今年は私的にいろいろ飛躍の年。北海道マラソン（8月28日、札幌開催

## 総勢33人、北大ちゃんげ先陣ゴールで面目の上田部長

昨年続いて大人数の参加となった北海道大学トライアスロン部ちゃんげ。その総勢33人という大所帯を率いて出場した部長の上田暁之さん（21）は3年目は、日本選手権大会予選会兼いわて国体予選会の特別カテゴリーで2位入賞、全体でも3位の大健闘で部長の面目躍如。



北大ちゃんげ部長の上田さん

しかし「ゴール後開口一番の言葉は『ランがだめだった』と反省しきり。『課題が残りました。もうちょっと暑さに対する練習とランの練習をしないと…。来年はもっと頑張ります』」。

にもフルマラソンに出ます」。

## トライアスロン仲間の穴田さん、遠藤さん、10年連続出場

一週間前の苦小牧ハスカップトライアスロン大会に引き続き出場した穴田さん、遠藤さんは、第1回大会以来一緒に10年連続の出場を更新しました。ともに苦小牧トライアスロン協会の所属。ハスカップ大会も3回大会以来、今年30回大会まで欠かさず出場してきたそうです。

「この大会はおもしろい。いつも天気がいいし、結構アップダウンもあるし」とレースを楽しんだよう。8月はこの後北海道マラソン、9月はウルトラ・マウント・トレイル（静岡県富士市）、10月は日本山岳耐久レース（東京・あきるの市）にも出場を予定しているそうです。

## ジュニア男子は青野兄弟が今年もそろって優勝

昨年まで連続8回出場でジュニア3連覇を果たした兄の青野亜土夢君（16）は富良野高校1年11の出場が途切れ、代わって二男、叶夢君（14）は上富良野中2年11がジュニアの部初優勝。三男、挑夢君（12）は上富良野小6年11が小学校高学年の部で優勝を飾りました。「スイムの練習していなくて、練習してきたランで成果が出た」。

## 沢田愛里選手、初回大会から女子10連覇



沢田愛里選手は、初回大会の出場以来連続出場記録を更新し、女子の部10連覇を果たしました。

「スイムで前後の選手をよく見ることで出て、まあよかったんじゃないかな」と今年は納得のレース運び。

「バイクで使う筋肉トレーニングに重点を置いて、どこをどう使うかを念頭に強化トレーニングしてきました」と今季は万全の仕上がり。ICUパワーマン・ロングディスタンス・デュアスロン大会（9月4日、スイス・ツォフィンゲン）にただ一人の日本人代表として出場する予定で、この日の結果に自信を深めたよう。

## 北海道は一番好きな場所

ニセコで観光業を営んでいるというマレーシア在住のフォード・ルークさん（36）は、前週開催の苦小牧ハスカップトライアスロン大会に続いて2週連続の大会出場。



ジュニア連覇の青野かな叶夢君（右）、挑夢君兄弟

挑夢君は「スイムの水が冷たくて、のがクーンとなってきてスピードが出なかった」とスタートの出遅れも響いて6位。

続くバイクでも「トランジションで追いつかれてしまった」と課題が残るレースだったようですが、得意のランで持ち前の強さを発揮しました。

◇コース（忠別ダム湖と湖畔の一般町道を周回する特設コース）

▼ジュニア ①スイム②中洞湖畔（親水広場）50分（小学1、2年、100分（小学高学年、中学生）③バイク④親水広場周辺の町道⑤小学1、2年生、同4・7分（小学高学年）、同6分（中学生）⑥ラン⑦町道5000分（低学年、同千分（高学年）、同2千分（中学生））  
▼一般コース ①スイム②5分（親水広場前）1周0・75分③2周④バイク40分（町道折り返し3周）⑤ラン10分（同折り返し3・5周回）